

阿部伸一先生 : New Engl J Med (2010)362:800-811

“HbA1cによる健常者の動脈硬化リスク階層化”

Glycated Hemoglobin, Diabetes, and Cardiovascular Risk in Nondiabetic Adults (ARIC study)

【背景】今、糖尿病の分野では HbA1c の糖尿病診断が Hot な話題の一つですが、今回は、健常者でも、心血管イベントや脳卒中の動脈硬化疾患のリスク判定に、HbA1c レベルが応用可能だというお話です。米国の HbA1c は 0.4% 高いので、下の A1c から 0.4% 差っ引いて考えてください。

【方法】11,092 名の健診者を HbA1c (<5.0/ 5.0 to <5.5/ 5.5 to <6.0/ 6.0 to <6.5/ ≥6.5) や空腹時血糖値 (<100/ 100 to <126/ ≥126) にて、階層化しその後の糖尿病進展、心血管イベント、脳卒中、全死亡についてリスクが検討された

【結果】健常者レベルであっても、HbA1c 値と糖尿病進展リスクは予想通り性の相関を示した。また、心血管イベントは、年齢、性、人種、BMI、脂質、高血圧を補正した上で、HbA1c 5.0 to <5.5 の HR=1 とすると、5.5 to <6.0; HR=1.23, 6.0 to <6.5; HR=1.78, ≥6.5; HR=1.95 脳卒中は、HbA1c 5.0 to <5.5; HR=1, 5.5 to <6.0; HR=1.17, 6.0 to <6.5; HR=2.22, ≥6.5; HR=3.16 で死亡率も 5.0 to <5.5% 前後を底に、J カーブのリスク変動を示した。

空腹時血糖値での階層化では、ここまでの有意な階層化されたリスク判別は出来なかった。

【結論】日本では、HbA1c を糖尿病診断に使うかどうかという議論がなされていますが、米国ではすでに HbA1c が、健常者の動脈硬化リスクの判別に重要だということろまで話がすすんでいます。健診の HbA1c を見て、今年もなんとかセーフなどと、泣いたり笑ったりしている人をよく見かけますが、そんな人も米国に行けば、HbA1c 0.4% 増しですから、間違いなくハイリスク階層という事になります。。どうしましょう。。(文責 阿比留)